

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790500045		
法人名	医療法人社団 博英会		
事業所名	ニコニコグループホーム		
所在地	白河市鶴巻山40		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和6年3月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議や本人と家族、職員の意見を大切に、積極的に運営に活かすことで、職員の気づきが誘発され、利用者本位の行事や食事の提供に繋がっている。利用者一人ひとりの思いや願いをくみ取り、叶えてあげられない希望であっても寄り添うなど、一人ひとりの現状に向き合い、利用者その人を尊重したケアに取り組んでいる。
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示して朝礼の際に唱和し、開設当初の理念を確認する機会としている。	開設時、事業所の目指す姿を考え法人の担当者や所長が理念を作成している。職員には、事業所の基本的な考えが理念の中にあることを理解して貰い、それを実現するために自分がどうすべきか考えてケアに当たって欲しいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	利用していたであろう店舗や直売所などへの外出計画を立てているが頻繁には実施できていない。	町内会に加入し、市の広報紙を届けて貰っている。コロナ禍前は、弾き語りのボランティアや夏には地域のこども園の幼児が訪れてくれる。コロナ終息時には、外出の機会を作り、地域との交流を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市のあんしんメイト養成講座の実習受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	事業所の活動報告資料に行事開催時の写真や季刊誌を添付するなどして話題の提供に努めている。家族代表など施設外の方からの意見が気付きに繋がることもあるため、実現可能なものについては介護の現場にすぐに生かすように心がけている。	行事に、利用者の意見を反映しては、との意見があり、利用者に希望を聞いたところ、ビールを飲みたいという意見があり、夏の行事の際に希望者にノンアルコールビールを提供し、喜ばれたことがある。双方向の会議になるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議において実情を報告している他、確認事項があれば直ちに市担当者と連絡を取り解決を図るよう努めている。	地域密着型施設の越境利用について相談したり、介護保険情報や、県高齢福祉課から出される各種情報や感染症に関する情報提供などを、主としてメールで受け取っている。行政の担当者と現状確認や問題を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	階段からの転落が予測されるため、階段に繋がるドアの施錠は行なっているが、言葉等による身体拘束も含めて行なわないよう努めている。	身体拘束などの行動制限は行なわないことを基本にしている。定期的に、身体拘束廃止委員会において検討・作成し、勉強会で随時確認している。一人歩きする方には、付き添って歩行し、安全な場所では自由に行動して貰っている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的で開催されている法人の勉強会に参加する他、事業所内でも勉強会を開催して、身体拘束廃止・転倒予防・虐待予防について話し合いを行なっている。	県や市から提供される虐待防止法関連の情報で確認したり、法人内の勉強会などでも学び確認している。暴力行為のような見えるものだけでなく、無視したり強い口調で命令したりするといった行為も虐待であることを理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで対象となる方の利用はないが、その必要性が出てきた場合には、法人内、若しくは地域包括支援センターに相談して対応していくこととなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族など説明を受ける側の立場になり、できるだけわかりやすく噛み砕いて説明し、質問がないか確認しながら納得いただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で話をする際に、何か気づいたことなど無いかなど質問を投げかけ、話し出しやすいよう配慮し、意見や要望があった際には、その都度対応している。	栄養バランスだけでなく、本人の好きな物も食べさせたいとの要望に、刺身を持ってきて貰い、一品加えて提供したことがある。職員では気付けないことあり、本人・家族の思いを大切にすることがサービスの質の向上に繋がると考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	スタッフミーティングで職場の現状も伝え、課題・対策等職員同士で検討して意見交換を行ない、業務に反映させている。	食事や行事など、季節を感じられるものをとの意見に、行事を暦に合わせて開催するようにしている。もうそんな季節なのかと利用者から話があったり、職員手作りの水ようかんを食べて貰うなど、季節を感じて貰えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休業の取得に応じている他、外部研修にも参加できるよう調整している。また、職員が快適に勤務できるように希望をできるだけ反映させた勤務表作りに努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修にも定期的に参加している。また、個別面談を実施し、各自が抱えている悩みを聞き、改善に向けたアドバイスを提供できるよう努めている。	職員の育成に取り組むことで、人材の定着や職員の意識向上に繋がるなると理解し、具体的な方針を作ろうとしている。研修参加の申し出があれば支援し、学んだ内容を基に自主的に行動に移したり、他の職員がアドバイスを求めたりしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で開催される研修や、市主催の介護相談員との勉強会等への参加が、同業者との交流の場となり、情報を得る機会になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学に来ていただき、不安な点や困っていることを伺い、十分に説明・話をして、できるだけ不安が残らないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用問い合わせや施設見学、実態調査など入所前の段階で不安な点や困っていることを伺い、できるだけ不安が残らないよう説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用問い合わせや施設見学、実態調査など入所前の段階で、本人や家族の希望していることや自宅での介護状況を聞き取りし、必要であれば併設のケアホーム等の利用を提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ、おかずの取り分けなど利用者と共に行なう機会を作る他、積極的でない方にも手伝っていただけることはないか職員間で話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取りながら、本人の状態に合わせて面会や外出、必要な物の買い物などの協力を得ることで、共に利用者を支えていくことを意識できるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた物を持ち込んでもらって少しでも心地よい環境が作れるよう配慮している。また、知人などの面会も要望があれば受け入れて、これまでの関係性が続くよう努めている。	コロナ禍前は親族や友人などとの面会、家族と外出して買い物や食事なども楽しんで貰っている。利用者の希望で、直売所や衣料品店、コンビニに出かけ、馴染みの関係が継続できるようにしている。感染対策し、面会して貰っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話や歌が好き、軽作業をしたいなど利用者其々の思いや性格、雰囲気などを考慮して座席を配置し、実情に応じて適宜、座席配置の変更を行ない、利用者同士が関り合える環境を提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはその後の生活について不安等ないか確認しつつも相談していただけるようお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組心がけている。	自宅で生活していた際の習慣や、過ごし方の希望を事前に確認し、利用中も思いの変化を聞き取りながら本人本位のケアに努めている。	利用者の思いを把握し理解し、それが叶わない現状も含めて思いに寄り添いながら、可能な限り希望に添えるようにしたい思いで傾聴するよう努めている。把握の困難な方には、こうしてほしいのではと思いを巡らせるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、在宅サービス利用時の介護支援専門員から情報を収集して、グループホームでの生活に居あかセル用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りなどを活用して、利用者の能力についての気付きも共有して状態把握を行なえるよう務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時や日々の申し送りの中で職員間で常に情報交換している。家族とも電話等で連絡を取り、必要な対応について検討を行なっている。	その人のこれまでの暮らしや、趣向などを考慮して、今できることが維持できるように配慮した計画作りをしている。利用者の変化や新たな面の発見など、職員の気付きを大切に、その人がより良い生活が送れるよう話し合いを重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを導入し、利用者の様子の記録と閲覧を容易に出来る様にしており、必要に応じて実践等の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて食事のメニューを一部変更したり、衣類の変更を行ったりして、柔軟に対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出した際には地域資源の活用を検討している。また、市内の理美容の方に依頼し、月に1～2度、散髪に来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関を指定することはせず、本人、家族の意向を尊重して受診の対応をしている。必要があれば、医療機関に対して書面で利用状況を伝え、円滑に受診できるよう努めている。	入居前のかかりつけ医への受診を継続するかどうか、本人・家族の意見を尊重している。受診は、基本的には家族での対応となっている、車椅子の方には、事業所で送迎を行なえるよう協力し、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師、及び法人内の看護師と常に連携を取って情報を共有し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入所状況の情報提供を行なっている。また、退院の見込みが出た際には早めに連絡いただけるようワーカーに依頼し、スムーズな退院支援が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、状態の変化を家族や施設内及び法人内の看護師と情報を共有するようにしている。本人や家族の意向と施設でできるケアを話し合っして少しでも納得のいく終末期を迎えられるよう努めている。	利用者の状況変化について主治医に報告して備える他、看護師にも24時間連絡が付け体制を取るようにしている。利用者が終末期を迎えた場合、好きな食べ物を家族に持参して貰ったり、終末期には面会して貰える対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡経路、対応の仕方についてはマニュアル化しているが、全スタッフがいつでも対応できるよう、定期的なマニュアルの確認を行なっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣からの火災や夜間の災害など、様々な状況を想定して避難訓練を実施している。消防署員の指示に従い、避難路の確保など環境整備も行なっている。	消防署立ち合いの訓練後、日中の時間だけでなく、様々な状況で避難訓練計画を立ててほしいと話があった。運営推進会議の際に町内会長より機会があったら避難訓練にも呼んでくださいと話があり、今後の検討課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさや口調に配慮し、近くで声掛けするなどその方に応じた対応を心がけている。	一人ひとりに、これまで歩んできた人生があり家族がある、人生の先輩であるということ意識してケアに当たるよう伝えている。援助が必要と思われるときでも、本人の気持ちを考えて、自己決定しやすさを基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の趣向や飲み物、おやつ、レクリエーションなどその方の希望を聞くなどして、できるだけ本人の自己決定が促せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝ていたい方、歩きたい方などその方のペースに合わせて職員が対応できるように配慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寒さや暑さに応じた衣類調整は職員でアドバイスするが、その方の好みの服装などを尊重できるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	おかずの取り分けや盛り付け、食器拭き等、その方の能力に応じた作業を職員と共に行なえる機会を作っている。	その人のペースで食事ができるようにしている。おせちや芋煮など季節に合わせた料理を提供したり、誕生日にはケーキやクレープなどの菓子類を手作りして利用者にも飾り付けを楽しんで貰いながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には同じ量を提供しているが、少な目が良い方、多めが良い方など傾向を把握して、それぞれに調整も行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自歯のある方、部分義歯の方、歯の無い方、其々に応じた口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの使用を基本として、トイレで排泄できる方は排泄パターンを確認してトイレ誘導している。必要に応じて誘導のタイミングを適宜見直している。	失敗は仕方がないとしながら、安易にオムツの使用を選択しない、トイレで排泄ができる可能性を念頭に置きながらケアに当たっている。本人の希望があり、身体状態に問題が無ければトイレ誘導を行なってみようとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を常に確認して、水分摂取量の調整や看護師と相談して下剤を使用するなど、定期的に排便が見られるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴していない事態が発生しないよう入浴の順番表は作成しているが、午前か午後、どちらのタイミングでも入浴出来るよう本人の希望を確認したりしている。	体調不良や事故の可能性を考慮して、入浴時間はある程度決めていたが、希望があり体調が安定している等の条件が揃えば、夕方の入浴も行なっている。入浴ができなかった方には、シャワー浴や全身清拭などで清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや年齢等を考慮しながらベッドで休む時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が処方されると、処方内容に変更がないか確認を行ない、使用の目的や用法・用量の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた作業(洗濯物たたみや食卓拭き、洗濯物干しなど)をお願いし、自宅にいる時に行なっていたであろう動作を変わずにできる環境を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の計画を立ててはいるが、新型コロナやインフルエンザ等の感染の影響で中止となってしまっているが、天候を見て施設周辺の散歩を行なっている。	事業所周圍を車いすでも介助しながら移動したり、直売所やコンビニなどへ職員と外出している。行事で出かけるときは、トイレの場所や行程の確認を行ない、嘔吐など不測の事態に対応できるように衛生用品の準備も行なっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはお小遣い帳で管理しているが、お金を持っていないと落ち着かないなど希望があれば、所持金を家族と確認した上で本人管理とするケースもある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望があれば家族に電話をして、本人に受話器を渡して話をしていただくこともある。家族から電話があった際も、本人に電話を代わる提案をすることもある。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>床の掃き掃除・モップ掛けなどを行ない清潔保持を心がけている。施設内の壁に季節に応じた飾り付けを行ない、季節を感じていただけるよう努めている。</p>	<p>ひとり一人思いのままに、共有空間や自室で、ソファに座ったり、日光浴で暖まる方などその方の過ごしたい場所で過ごして貰っている。歩行や移動のため物を片付けて動線を確保するよう心掛けている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースで利用者同士で話をしたり、ソファに座って一人で外を眺めたりできるような環境作りを心がけている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>写真立や鏡、本など自宅で気に入って使用していたものを持ち込んでいただいている。ベッドの配置なども本人の過ごしやすいように配置できるよう心掛けている。</p>	<p>身体状況に合わせて、自宅でのベッドの配置を参考にしたり、タンスの位置を希望に応じて変更したりしている。フロアや居室内は定期的に業者の清掃が行なわれ、利用者の希望を聞きながら職員も居室内の掃除を行なっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自室から食堂やトイレ等への移動が自力でできるよう、段差のないバリアフリーとなっている他、歩行の妨げとなる物を利用者の動線上に放置しないように常に注意している。トイレの場所については目印を付けている。</p>		